

## 地域間幹線系統確保維持計画（原案）に対する意見募集の結果について

千葉県バス対策地域協議会安房分科会で協議のうえ作成した「地域間幹線系統確保維持計画（原案）」について、令和7年5月2日から同年5月16日まで意見を募集したところ、南房州本線（ジェイアールバス関東株）について意見をいただきました。提出された意見及び検討結果の概要は次のとおりです。

### 1 意見の提出件数 4件

結果の公表にあたり、協議対象路線の地域間幹線系統確保維持計画(原案)に関連する意見を抽出させていただきました。

### 2 意見の概要と検討結果 以下のとおり

意見の概要	検討結果
<ul style="list-style-type: none"><li>・鉄道から乗り継ぐこと以外も視野に入れ、駅から離れた場所にバスターミナルを設置するのはどうか。</li><li>・高速バスと連携し、パーク&amp;ライドを充実させ、地元民以外にも観光客にも路線バスを利用してもらおうような施策を官民で検討してほしい。</li><li>・館山市内は、学校再編に関連して、スクールバス混乗など検討の余地があるのではないか。</li></ul>	<p>沿線関係市に確認したところ、利便性向上案や利用促進案については、「南房総・館山地域公共交通計画」に定めており、いただいたご意見の内容に対応していると考えられることから、計画は修正しないとの回答がありました。</p> <p>また、バスターミナルの設置やパーク&amp;ライドの推進については、「支線との連携を改善し幹線としての機能強化を検討する」という点に対応していることから、計画の修正は行わず、今後の協議時の参考にさせていただくとの回答がありました。</p> <p>加えて、スクールバス混乗については、「利用者の動向の把握に努め、ニーズに沿った運行計画を検討する」としており、いただいた意見に対応していると考えられることから、計画は修正しないとの回答がありました。</p> <p>なお、ジェイアールバス関東（株）に確認したところ、2025年4月よりICカード及び特殊定期券（学期定期券）を導入しており、お客様の利便性向上及び利用促進につながると考えているとの回答がありました。</p>

そのため、令和 8 年度地域間幹線系統確保維持計画については、  
原案のとおりとさせていただきます。

意見の概要	検討結果
<ul style="list-style-type: none"><li>・現在よりも便数を減らすことは、自家用車を持たない人にとって、通勤が不便になるので避けてもらいたい。</li><li>・朝 6 時 50 分頃までに根本バス停に到着する便があると、7 時に勤務開始の人も働きやすい。</li></ul>	<p>沿線関係市に確認したところ、「利用者の動向の把握に努め、ニーズに沿った運行計画を検討する」としており、いただいたご意見に対応していると考えられるため計画は修正せず、今後の協議の参考にさせていただくとの回答がありました。</p> <p>なお、ジェイアールバス関東（株）に確認したところ、便数を減らすことは考えておらず、時刻については利便性を考えて、前向きに検討していきたいとの回答がありました。</p> <p>そのため、令和 8 年度地域間幹線系統確保維持計画については、原案のとおりとさせていただきます。</p>

意見の概要	検討結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Suicaでの支払いが導入され、小銭を常に用意することから解放された。</li> <li>・南房州本線について、日常のバス運行があり心強い。1日4便の運行だが、この便数を維持してもらいたい。</li> <li>・南房州本線の正午に館山駅を出発する安房白浜行きは、館山病院からも同時刻に「白浜・神余・長田方面」バスが出発しており、同じ時間、同じ路線を走っていることが大変もったいなく感じる。運行主体は違うが、二つのバスを効率的に運行する方法はないか。</li> </ul>	<p>沿線関係市に確認したところ、「利用状況等から総合的に判断し必要な見直しの検討を行う」としていることから、計画は修正せず、時刻表の調整や効率的な運行については、今後の関係者間での協議の参考とさせていただくとの回答がありました。</p> <p>なお、ジェイアールバス関東（株）に確認したところ、運行本数に関しては、現在の本数を維持することとし、効率的な運行については、自社のみでの調整は難しいことから、関係各所と検討していきたいとの回答がありました。</p> <p>そのため、令和8年度地域間幹線系統確保維持計画については、原案のとおりとさせていただきます。</p>

意見の概要	検討結果
<p>・館山市内線を館山航空隊～館山駅間からイオンタウン館山を超えて乗りとおす需要はそれほど多くない。一方で、館山鴨川線や南房州本線、洲の崎線からイオンタウン館山へ行くためには、館山市内線や、かいまーるへの乗り継ぎが必要である。また、館山市内線から館山病院や安房地域医療センターへ行くためには、乗り継ぎが必要である。そのため、買い物や通院時間帯においては、館山鴨川線、南房州本線、洲の崎線の起終点をイオンタウン館山に変更し、館山市内線を館山病院、安房地域医療センターまで延長するのはどうか。</p> <p>・南房州本線において、館山病院、おどや、南総文化ホールにアクセスすること、下真倉地区の国道410号バイパス沿いの住宅地開発に伴って沿道の発展が進んでいることから、買い物・通院時間帯は一部の経路を410号バイパス、南町経由に変更するのはどうか。</p> <p>・JRバス関東（株）は広域的に事業を展開しているが、「地域間幹線系統確保維持計画」の算定基準となる運行経費は、乗合バス事業全体の経費をキロ当たりで割ること、某市以外のバス購入費が含まれること、車両償却費や一般管理費、営業外費用等が含まれることについて、県外のものも含まれるのか、県内のみで算出されるのか、それとも館山支店だけの会計になるのか、差し支えなければ教えてほしい。</p>	<p>沿線関係市に確認したところ、「利用者の動向の把握に努め、ニーズに沿った運行計画を検討する」としており、いただいた意見に対応していると考えられることから原案は修正せず、路線変更等については、関連する路線において、今後の関係者間での協議時に参考とさせていただくとの回答がありました。</p> <p>なお、ジェイアールバス関東（株）に確認したところ、現在、南町経由については考えていないが、今後検討したいとの回答がありました。</p> <p>また、運行経費に関する回答は差し控えさせていただきたいとの回答がありました。</p> <p>そのため、令和8年度地域間幹線系統確保維持計画については、原案のとおりとさせていただきます。</p>